

年 度 評 価 シ ー ト

課名 高齢者福祉課

施設の名称 静岡市井川高齢者生活福祉センター	指定管理者名 (福) 静岡市社会福祉協議会
1 履行状況	
<p>業務仕様書及び事業計画書に従って、概ね適切に履行されていた。</p> <p>(1) 維持管理業務 事業計画に従って、施設設備や送迎用業務車両の定期的点検業務が適切に履行されていた。</p> <p>(2) 介護サービス事業等 生きがいデイサービス、介護（介護予防）デイサービス、ショートステイを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設全体の延べ利用者数 1,826人（対前年度比：-125人、-6%） ・ ショートステイの延べ利用者数 3人（対前年度比：-110人、-97%） ・ 生きがいデイサービスの延べ利用者数 19人（対前年度比：-106人、-85%） ・ 介護（介護予防）デイサービスの延べ利用者数 1,804人 (対前年度比：+114人、-6%) ・ ケアプラン作成の利用件数 247件（対前年度比：-1件、-0%） ・ 生活支援型居室については、前年度と同様に利用者はいなかった。引き続き、利用者の募集の呼び掛けに努めていく。 <p>(3) 地域交流事業 井川交番による防犯講話等（毎月2回実施）、井川小中学校との交流会（2回）、美容ボランティア（9回）、福祉用具展示会（2回）、日本舞踊（1回）等が実施された。</p>	
2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）	
<p>診療所との連携ができているため安心するという意見や、業務時間外の相談にも対応してくれて嬉しいという意見があった。</p> <p>介護サービスについては、ショートステイの長期入所（土日祝日を含めた利用）・土日祝日のサービス提供、デイサービスの時間延長の要望が挙げられた。</p> <p>その他、自立支援の人への勧誘に力を入れてほしい等の要望も挙げられた。</p>	
3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価	
<p>(1) 利用者アンケート 施設利用者17人から回答を得た。（一部、利用していないサービスは未回答）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 親切丁寧な送迎 → 満足17人（100%） 不満0人 ・ 提供する食事 → 満足17人（100%） 不満0人 ・ 入浴時の介護 → 満足14人（100%） 不満0人 ※利用なし3人 ・ 機能回復訓練 → 満足16人（94%） 不満1人（6%） ・ 職員の態度等 → 満足17人（100%） 不満0人 	

- ・ 計画の立案、変更 → 満足15人 (88%) 不満2人 (12%)
- ・ 福祉用具等の相談 → 満足13人 (100%) 不満0人 ※利用なし4人
- ・ 家族からの要望 → 満足14人 (82%) 不満3人 (18%)
- ・ 医療機関との連携 → 満足15人 (88%) 不満2人 (12%)
- ・ レクリエーション → 満足21人 (100%) 不満0人

「提供する食事」については不満と評価した人が1人減った。

「機能回復訓練」については不満と評価した人が1人減った。

「職員の態度等」については不満と評価した人が1人減った。

「計画の立案、変更」については不満と評価した人が2人増えた。

「家族からの要望」については不満と評価した人が3人増えた。

「医療機関との連携」については不満と評価した人が2人増えた。

(2) 市民アンケート

地域住民35人を対象にアンケート調査を行った。

- ・ 施設の清潔感 → 満足33人 (94%) 不満2人 (6%)
- ・ 適切な使用備品 → 満足31人 (89%) 不満4人 (11%)
- ・ 利用時間 → 満足32人 (91%) 不満3人 (9%)
- ・ 対利用者への
催し物の広告 → 満足30人 (86%) 不満5人 (14%)
- ・ 防災避難訓練 → 満足32人 (91%) 不満3人 (9%)
- ・ 地域交流の場の
ための施設の開放 → 満足35人 (100%) 不満0人
- ・ 生活支援ハウス → 知っている14人 (40%) 知らない21人 (60%)

地域交流の場のための施設の開放については、昨年度最も満足度が低かったのに対し、今年度は100%の満足度を得ることができた。

4 指定管理者の経理状況の評価

概ね予算書のとおり執行されており、良好であることを確認した。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

デイサービス事業は、利用登録者数は減少しているものの、延べ人数は増加した。ショートステイ事業は、年度後半に利用者がいなくなった。利用対象者数は限られており、利用者数を大幅に増加させることは難しい。しかし継続して利用の呼びかけや、地域住民との交流の機会を積極的に持つなどの地道な取り組みによって利用者の確保に努めていきたい。

※事務事故が発生したとき及びモニタリングにおいて改善の指導があったときは、必ず改善状況を記載すること。